



ともに日弁連を変えよう！

市民のための司法をつくる会（変えよう！会）

代表：及川 智志 顧問：宇都宮健児 / 海渡雄一

<http://change-nichibenren.com> ←賛同者募集中

【宇都宮健児元日弁連会長からの応援メッセージ】

そろそろ、国政と同様、日弁連も政権交代が必要な時機にきているようだ。現在の情勢下では、弁護士自治をしっかりと守り抜き、国民・市民の基本的人権の擁護と社会正義の実現のために先頭に立つ活気のある日弁連が求められている。このような日弁連への変革をやり遂げる意思と能力を持っているリーダーが求められている。日弁連に新しい風を再度吹き込むためには、及川智志弁護士を応援する。

一 変えよう！会設立総会における宇都宮健児元日弁連会長の発言から 一

（★宇都宮健児元日弁連会長の発言の詳細は当会のHPに掲載しております。）

勝つかどうか分からないけど、これは絶対許せないからやるのが闘争である。だから、やってみないと分からないじゃないかということで、給費制維持緊急対策本部をつくった。大変な取り組みで、給費制1年延長の合意をかちとった。

この給費制の問題で大きかったのは、日弁連だけの運動にしなかったということ。一つは、ビギナーズ・ネット。どういう運動でも、当事者が立ち上がらないと、その運動は駄目。だから、当事者に一番近いロースクール生とか、若手の弁護士を中心にビギナーズ・ネットを5月に立ち上げた。もう一つは、市民の支援グループ「司法修習生に対する給与の支給継続を求める市民連絡会」をつくってもらった。クレサラ運動をやっていた中で、消費者運動などで知り合った人たちが、給費制を守るということは、自分たちの人権を守る弁護士を育成することにつながるんだということで、立ち上がってくれた。

2年間あれば、給費制維持を勝ち取ることができたのではないかと。ところが、合意の翌年（2011年）3月、東日本大震災が起きて、原発事故が起きて、さすがに2011年の4月から夏くらいの間は、本当にその問題にかかりきりになってしまった。給費制維持について一生懸命動こうとしても、政府の方も自民党の方もそれどころじゃないという感じになってしまった。

現在の日弁連執行部は、信頼関係をつくるということを理由として、言うべきことを言わず、日弁連がやるべきことをやらない。その結果として、日弁連の立場をどんどん後退させているのではないかと。ここらで日弁連執行部に喝を入れないと、どんどん、後退に後退を重ねて、市民の権利が守れず、市民のための司法が実現できないと思う。

私が設置した法曹人口政策会議で「まず1500人」の結論を出した直後、日弁連が合意形成して出した人口政策を実現するための対策本部をつくるべきだと思って、日弁連会長（2012年度、2013年度）の選挙にもう一回チャレンジした。

弁護士が自分たちの中で、これは大変だ、大変だと言っても、それはなかなか世論とはならない。院内集会なんかも、この問題で、日弁連がちゃんと音頭を取って、やるということが重要。ところが、宇都宮執行部の後、日弁連の法曹人口政策を実現する運動がなくなってしまった。法曹人口についての政策が決まったけれども、その実行部隊がない状態になってしまった。

世の中のある程度の部分の人に、いまの弁護士の数が、こんなに急激に増えていくというのは、法曹そのものを何か非常によくない方向に変質させるかもしれないし、弁護士自治まで損なわれるかもしれないということを、理解してもらうための運動が必要である。及川さんなら、私がやろうと考えていたことを実現してくれると思う。及川さんに期待したい。



活動資金のカンパをお願いします



（振込口座） みずほ銀行 京都中央支店 普通預金 口座番号3010571

口座名義 「変えよう会 会計 牧野聡」（かえようかい かいけい まきのさとし）

チェンジ日弁連

